

【様式】 第 2 号の 1 ～ 4 ―①

大学・短期大学・高等専門学校

(注) 様式第 2 号の 1 ―①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第 2 号の 1 ―②を用いること。

(注) 様式第 2 号の 2 ―①

※国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2 ―②を用いること。

(注) 様式第 2 号の 4 ―①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第 2 号の 4 ―②を用いること。

(申請書を作成する際には、1 頁目を削除すること)

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	和洋女子大学
設置者名	学校法人 和洋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
人文学部	日本文学文化学科	夜・通信	40	0	102	142	13	
	心理学科	夜・通信			65	105	13	
	こども発達学科	夜・通信			54	94	13	
国際学部	英語コミュニケーション学科	夜・通信		6	20	66	13	
	国際学科	夜・通信			8	54	13	
家政学部	服飾造形学科	夜・通信		2	53	95	13	
	健康栄養学科	夜・通信			90	132	13	
	家政福祉学科	夜・通信			110	152	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		0	148	188	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.wayo.ac.jp/students>
<https://www.wayo.ac.jp/application/files/9817/1711/5814/2024jitsumukeiken.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和洋女子大学
設置者名	学校法人 和洋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://data-univ.wayo.ac.jp/2117/1204/2258/yakuinlist20240401.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 私立大学 学長	2024. 4. 1 ～ 2028. 3. 31	教学（教育）
非常勤	元 生命保険会社 社長	2023. 7. 17 ～ 2027. 7. 16	財務（資産運用）
非常勤	元 放送局 社長	2021. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	渉外（地域連携）
非常勤	国立大学 名誉教授	2024. 4. 1 ～ 2028. 3. 31	教学（研究）
非常勤	元 放送局 局長	2024. 4. 1 ～ 2028. 3. 31	渉外（広報・募集）
非常勤	元 金融機関 頭取	2022. 4. 1 ～ 2026. 3. 31	教学（教育）
非常勤	元 学校法人 事務局次長	2024. 4. 1 ～ 2028. 3. 31	—
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和洋女子大学
設置者名	学校法人 和洋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・人文学部、国際学部、家政学部、看護学部すべてにおいて以下の通りである。 ・授業計画(シラバス)の作成過程 ①12月中旬～1月初旬: Web 入稿システムを利用して、執筆者(担当教員)が入稿する ②1月中旬～1月下旬: 第三者(学部長、学科長、研究科長等)が確認する ③1月中旬～2月上旬: 担当教員による修正期間(第三者からの指摘事項に対して担当教員が修正することも含め) ・授業計画の作成・公開時期 授業計画の作成は、「シラバス作成のガイドライン」に従って、担当教員が Web 入稿システムを利用して行う。 公開は Web シラバスにて例年3月16日前後に行い、大学保管用に印刷物を作成している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.wayo.ac.jp/web/show.php
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・人文学部、国際学部、家政学部、看護学部すべてにおいて以下の通りである。 ・全学生に入学時に配付する「履修ガイド」の履修要項の「2 試験、単位及び学位認定 2. 評価」に評価方法を記載し、全学的な基準を示している。 ・加えて、開講科目ごとに授業計画(シラバス)に【評価方法】を掲載して、ホームページで公開している。なお、授業計画(シラバス)執筆の際のマニュアルには、「どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのか、具体的に記載」することを教員に求めている。 ・また、授業計画(シラバス)には科目ごとに【学位授与方針】の項目があり、学科のディプロマ・ポリシーと科目との対応が掲載されている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・人文学部、国際学部、家政学部、看護学部すべてにおいて以下の通りである。 ・成績評価、GPAの指標を設定し、全学生に配付の履修ガイド、ホームページに掲載している。 ・GPAは前期、後期の成績通知時に、成績評価に従って算出し、成績評価と共に学生に通知している。なお通知の方法はインターネット（学生ごとにログインする大学のポータルシステム使用）による。保護者宛にも年に2回郵送している。 ・＜GPAの算出方法＞ GPAは、学生が履修した科目の成績の平均を数値で表したもので、年度ごとのGPAと入学時からの通算の通算GPAの2つのGPAが算出される。本学におけるGPAの算出式は下記に示すとおりである。 $GPA = ((S \text{ の単位数} \times 4) + (A \text{ の単位数} \times 3) + (B \text{ の単位数} \times 2) + C \text{ の単位数} \times 1) / (\text{履修登録単位数} - \text{履修取り消し単位数})$ ※小数点以下第2位で切り捨て ※評価「認定」はGPA算出の対象外とする	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://syllabus.wayo.ac.jp/web/show.php
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・学部・学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表すると共に、全学生に配付する履修ガイドに掲載し、周知を図っている。 ・大学情報公表として、卒業要件をホームページにて公表している。 ・大学学則第5節第38条「第12条に定める修業年限に在学し、別表ウに定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学位を授与する。」に定める通り、卒業見込みの学生は、卒業要件の充足状況や学費の納入状況などを記載した判定資料を参考に、3月に行われる学部教授会（判定教授会）の議を経て卒業が認定される。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ディプロマ・ポリシー： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#diplomapolicy 卒業要件： https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure https://www.wayo.ac.jp/application/files/5617/1806/8679/2024sotsugyouyouken.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	和洋女子大学
設置者名	学校法人 和洋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.wayo.ac.jp/download_file/view/6b9c12c1-631d-4da9-bc41-61bfda9cd9b1/247
収支計算書又は 損益計算書	https://www.wayo.ac.jp/download_file/view/83a45ddb-23ee-41f8-8e92-e4b8ad82a659/247
財産目録	https://www.wayo.ac.jp/download_file/view/af52457b-c35e-477c-a968-f2185398d256/247
事業報告書	https://data-univ.wayo.ac.jp/4317/1705/9211/2023administrationreport0531.pdf
監事による監査 報告(書)	https://www.wayo.ac.jp/download_file/view/40caa2f1-6d1a-434b-ad4b-317e27bdf316/247

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人和洋学園事業計画)	対象年度: 2024年度)
公表方法:	https://www.wayo.ac.jp/application/files/2417/1212/9539/2024administrationplan.pdf
中長期計画(名称: 学校法人和洋学園中期計画)	対象年度: 2021年度～2025年度)
公表方法:	https://data-univ.wayo.ac.jp/8816/5968/3665/mediumtermplan20212025.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.wayo.ac.jp/introduction/info#ninteisho
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission ）
（概要）人文学部は、人文科学・社会科学の分野において、広く知識を受けるとともに、深く専門の学術を教授し、知的・道徳的及び応用能力を展開させ、もって文化の発展と福祉の増進に寄与する有能な女性を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#diplomapolicy ）
（概要）人文学部は、日本文学文化学科、心理学科、こども発達学科から構成され、グローバル化や少子高齢化、人工知能などの技術革新等、変化が激しい社会に対応できる、広く深い教養と高度で実践的な専門知識や技能をもった自立した女性の育成を目的としています。その目的のもと、卒業に必要な単位を修得し、以下に示す要件を満たした者に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#curriculumpolicy ）
（概要）人文学部は、日本文学文化学科、心理学科、こども発達学科から構成されており、学科を越えて行われる教養教育との相互補完性のある専門教育を実施します。各学科のカリキュラム編成は、大学4年間を通してそれぞれの学科で学ぶための導入科目と基礎科目の学習の後に、専門科目と少人数による演習科目やゼミを配置して、主体的な学びを体得することを目的とします。このような方針のもと、以下のような教育課程を設けています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ、学生募集要項）
（概要）和洋女子大学は、人を支える「心」と「技術」を持って行動する女性の育成という教育理念のもと、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、学力三要素である、(1)大学での学びの土台となる、基礎的な知識・技能、(2)自ら課題を発見し、その解決に向け探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力、(3)幅広い視野を持ち、多様な人々と協働し、主体的に学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を十分に身に付けた、意欲ある学生を受け入れます。 このような学生を適正に選抜するため、本学では多様な選抜方法により、受験生を多面的・総合的に評価します。 https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission

学部等名 国際学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission ）
（概要）国際学部は、異文化コミュニケーションに必要な語学力と、世界の多様な社会文化について認識を深めることで得られる柔軟性とで形成される、グローバルコミュニケーション力を身につけ、異文化交流を促進する事業やグローバルな企業などにおいて活躍する国際感覚豊かな女性を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#diplomapolicy ）
（概要）国際学部では、異文化コミュニケーションに必要な語学力と、世界の多様な社会、文化について認識を深めることで得られる柔軟性を持ち合わせることで、真のグローバルコミュニケーション力を身につけ、国際観光をはじめとする異文化交流事業やグローバルビジネスにおいて活躍する人材を育成するという教育目的のもと、卒業に必要な単位を修得し、次の能力、知識を有する者に学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#curriculumpolicy) (概要) ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成するためには、自ら視野を広げ、自ら知識を体系化すると共に実践知を獲得し、自ら語学力を高めていく力をつけさせるような教育方法が必要となります。このような教育方針のもと、本学部では次のような内容からなるカリキュラム体系を用意しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ、学生募集要項) (概要) 和洋女子大学は、人を支える「心」と「技術」を持って行動する女性の育成という教育理念のもと、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、学力三要素である、(1)大学での学びの土台となる、基礎的な知識・技能、(2)自ら課題を発見し、その解決に向け探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力、(3)幅広い視野を持ち、多様な人々と協働し、主体的に学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性) を十分に身に付けた、意欲ある学生を受け入れます。 このような学生を適正に選抜するため、本学では多様な選抜方法により、受験生を多面的・総合的に評価します。 https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission
学部等名 家政学部 教育研究上の目的 (公表方法: https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission) (概要) 家政学部は、家政学の分野において、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術技芸を教授し、知的・道徳的及び応用能力を展開させ、もって文化の発展と福祉の増進に寄与する有能な女性を育成することを目的とする。 卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#diplomapolicy) (概要) 家政学部は、高齢社会、男女共同参画社会、そして持続可能社会の中にあって、生活に対する問題意識と感性を磨き、人々の生活の質 (QOL) を向上させ、人々がより幸せに生きられるライフスタイルの実現のために科学的、実践的に行動できる女性の育成を目的にしています。以下に示す能力や知識・技能を身につけ、卒業に必要な単位を修得した者に「学士 (家政学)」の学位を授与します。 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#curriculumpolicy) (概要) 家政学部は服飾造形学科、健康栄養学科、家政福祉学科から構成されており、各学科のカリキュラム編成は、講義科目に加え多くの実験・実習・演習科目を配置して、高度な専門知識と技術を持った専門家になるためのカリキュラムとなっています。さらに、3学科共通で学ぶ家政学共通科目を置き、家政学を基盤とした、生活の総合的・科学的・実践的な課題解決能力の育成をめざします。このような方針のもと、以下のような教育課程を設けています。 入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ、学生募集要項) (概要) 和洋女子大学は、人を支える「心」と「技術」を持って行動する女性の育成という教育理念のもと、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、学力三要素である、(1)大学での学びの土台となる、基礎的な知識・技能、(2)自ら課題を発見し、その解決に向け探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力、(3)幅広い視野を持ち、多様な人々と協働し、主体的に学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性) を十分に身に付けた、意欲ある学生を受け入れます。 このような学生を適正に選抜するため、本学では多様な選抜方法により、受験生を多面的・総合的に評価します。 https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission ）
（概要）看護学部は、看護学の分野において、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術技術を教授し、知的・道徳的及び応用能力を展開させ、もって保健・医療や福祉環境及び地域医療の発展と福祉に寄与する有能な看護師を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#diplomapolicy ）
（概要）多様化する人々の健康生活のニーズに対応できる看護実践者を育成します。ヒューマン・ケアリングの考え方を基盤に看護の専門知識と高度のコミュニケーション能力を養い、高い倫理観をもって地域に貢献できる人材を育成します。卒業に必要な単位を修得し、以下の6つの力を身につけた者に「学士（看護学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission#curriculumpolicy ）
（概要）看護学科では、ディプロマ・ポリシーに即した高度な能力もつ看護職を育成するため、次のカリキュラムを履修することで卒業時まで専門的知識・技術・態度の修得をめざします。 ●看護実践に必要な知識・技術を学ぶための「専門教育科目」を配置する。「専門教育科目」は「専門基礎科目」と「専門科目」で構成される。 ●「専門基礎科目」に、看護学の基盤となる「看護とホスピタリティ」「健康と健康障害の理解」、「健康支援と社会保障」を配置。 ●「専門科目」に、看護学の基盤となる「基礎看護」と「地域・在宅看護」を「基盤分野看護学」として配置。さらに人間の発達・健康段階の看護を学ぶ「発達分野看護学」、公衆衛生、精神をはじめ多様な場での看護を学ぶ「広域看護学」、看護の発展的展開と研究的態度を学ぶ「統合分野看護学」を配置。 ●教科目の年次進行は、基礎から専門へ、人間の成長・発達段階、環境と健康、疾病予防から終末期に至る看護を段階的に学ぶように配置。このため「実習科目」は前提科目の修得が必要。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ、学生募集要項）
（概要）和洋女子大学は、人を支える「心」と「技術」を持って行動する女性の育成という教育理念のもと、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、学力三要素である、(1)大学での学びの土台となる、基礎的な知識・技能、(2)自ら課題を発見し、その解決に向け探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力、(3)幅広い視野を持ち、多様な人々と協働し、主体的に学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を十分に身に付けた、意欲ある学生を受け入れます。 このような学生を適正に選抜するため、本学では多様な選抜方法により、受験生を多面的・総合的に評価します。 https://www.wayo.ac.jp/introduction/mission

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ 情報公開 https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
人文学部	－	17 人	16 人	0 人	7 人	5 人	44 人
国際学部	－	6 人	7 人	1 人	3 人	0 人	17 人
家政学部	－	17 人	15 人	0 人	9 人	26 人	68 人
看護学部	－	9 人	9 人	9 人	4 人	5 人	36 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		176 人					176 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.wayo.ac.jp/academics/teacher					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
https://www.wayo.ac.jp/application/files/5317/1221/6575/2023FDSD_list0404.pdf							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	240 人	229 人	95.4%	960 人	938 人	97.7%	人	人
国際学部	120 人	67 人	55.8%	480 人	327 人	68.1%	人	人
家政学部	290 人	243 人	83.8%	1160 人	937 人	80.8%	人	人
看護学部	100 人	94 人	94.0%	400 人	407 人	101.8%	人	人
合計	750 人	633 人	84.4%	3000 人	2609 人	87.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	252 人 (100%)	2 人 (0.8%)	238 人 (94.4%)	12 人 (4.8%)
国際学部	113 人 (100%)	2 人 (1.8%)	106 人 (93.8%)	5 人 (4.4%)
家政学部	294 人 (100%)	3 人 (1.0%)	278 人 (94.6%)	13 人 (4.4%)
看護学部	90 人 (100%)	2 人 (2.2%)	87 人 (96.7%)	1 人 (1.1%)

合計	749 人 (100%)	9 人 (1.2%)	709 人 (94.7%)	31 人 (4.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	253 人 (100%)	225 人 (88.9%)	17 人 (6.7%)	11 人 (4.4%)	0 人 (0.0%)
国際学部	133 人 (100%)	113 人 (85.0%)	13 人 (9.8%)	6 人 (4.5%)	1 人 (0.7%)
家政学部	316 人 (100%)	284 人 (89.9%)	17 人 (5.4%)	13 人 (4.1%)	2 人 (0.6%)
看護学部	93 人 (100%)	86 人 (92.5%)	5 人 (5.4%)	2 人 (2.1%)	0 人 (0.0%)
合計	795 人 (100%)	708 人 (89.1%)	52 人 (6.5%)	32 人 (4.0%)	3 人 (0.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ・人文学部、国際学部、家政学部、看護学部すべてにおいて以下の通りである。 ・授業計画（シラバス）の作成過程 ①12月中旬～1月初旬：Web 入稿システムを利用して、執筆者（担当教員）が入稿する ②1月中旬～1月下旬：第三者（学部長、学科長、研究科長等）が確認する ③1月中旬～2月上旬：担当教員による修正期間（第三者からの指摘事項に対して担当教員が修正することも含め） ・授業計画の作成・公開時期 授業計画の作成は、「シラバス作成のガイドライン」に従って、担当教員が Web 入稿システムを利用して行う。 公開は Web シラバスにて例年 3 月 1 6 日前後に行い、大学保管用に印刷物を作成している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・人文学部、国際学部、家政学部、看護学部すべてにおいて以下の通りである。 ・全学生に入学時に配付する「履修ガイド」の履修要項の「2 試験、単位及び学位認定 2. 評価」に評価方法を記載し、全学的な基準を示している。 ・加えて、開講科目ごとに授業計画（シラバス）に【評価方法】を掲載して、ホームページで公開している。なお、授業計画（シラバス）執筆の際のマニュアルには、「どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのか、具体的に記載」することを教員に求めている。 ・また、授業計画（シラバス）には科目ごとに【学位授与方針】の項目があり、学科のディプロマ・ポリシーと科目との対応が掲載されている。 ・卒業の認定に当たっては、学部・学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、ホームページにて公表すると共に、全学生に配付する履修ガイドに掲載し、周知を図っている。 ・大学情報公表として、卒業要件をホームページにて公表している。 ・大学学則第 5 節第 38 条 「第 12 条に定める修業年限に在学し、別表ウに定める所定の単位

を取得した者につき、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学位を授与する。」に定める通り、卒業見込みの学生は、卒業要件の充足状況や学費の納入状況などを記載した判定資料を参考に、3月に行われる学部教授会（判定教授会）の議を経て卒業が認定される。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	日本文学文化学科	124 単位	有	46 単位
	心理学科	124 単位	有	46 単位
	こども発達学科	124 単位	有	46 単位
国際学部	英語コミュニケーション学科	124 単位	有	46 単位
	国際学科	124 単位	有	46 単位
家政学部	服飾造形学科	124 単位	有	(1・2 年) 48 単位 (3・4 年) 44 単位
	健康栄養学科	124 単位	有	46 単位
	家政福祉学科	124 単位	有	46 単位
看護学部	看護学科	128 単位	有	48 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://syllabus.wayo.ac.jp/web/show.php https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：和洋女子大学 HP <https://www.wayo.ac.jp/>
施設キャンパス (https://www.wayo.ac.jp/facilities_campus/campus)
資料請求 https://www.wayo.ac.jp/document_request
資料請求はこちら <https://entry.s-axol.jp/wayo/step0?ef=1>
LINEで資料請求
https://access.line.me/oauth2/v2.1/login?returnUri=%2Foauth2%2Fv2.1%2Fauthorize%2Fconsent%3Fclient_id%3D1661506801%26scope%3Dopenid%2520profile%2520email%26response_type%3Dcode%26redirect_uri%3Dhttps%253A%252F%252Fentry.s-axol.jp%252Fwayo%252Fauthenticate%252Fcallback%252Fline%26bot_prompt%3Daggregate%26prompt%3Dconsent%26state%3DPfUfDxT-aMVswN6hIDCa-bvRVfgk4bf87h0PKxrTH5I&loginChannelId=1661506801&loginState=wiRH0uAhl7wvQse0o7r2pH#/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文学部	日本文学文化学科 1 年	660,000 円	250,000 円	367,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	日本文学文化学科 2-4 年	660,000 円	0 円	320,000 円	その他は施設費
	日本文学文化学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
	心理学科 1 年	660,000 円	250,000 円	367,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	心理学科 2-4 年	660,000 円	0 円	330,000 円	その他は施設費、実験実習料
	心理学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
	こども発達学科 1 年	750,000 円	250,000 円	377,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	こども発達学科 2 年	750,000 円	0 円	422,000 円	その他は施設費、実験実習料
	こども発達学科 3 年	750,000 円	0 円	372,000 円	その他は施設費、実験実習料
	こども発達学科 4 年	750,000 円	0 円	332,000 円	その他は施設費、実験実習料
	こども発達学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
国際学部	英語コミュニケーション学科 1 年	660,000 円	250,000 円	367,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	英語コミュニケーション学科 2-4 年	660,000 円	0 円	320,000 円	その他は施設費
	英語コミュニケーション学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
	国際学科 1 年	660,000 円	250,000 円	367,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	国際学科 2-4 年	660,000 円	0 円	320,000 円	その他は施設費
	国際学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
家政学部	服飾造形学科 1 年	700,000 円	250,000 円	407,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	服飾造形学科 2-4 年	700,000 円	0 円	360,000 円	その他は施設費、実験実習料
	服飾造形学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
	健康栄養学科 1 年	780,000 円	250,000 円	467,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費
	健康栄養学科 2-4 年	780,000 円	0 円	420,000 円	その他は施設費、実験実習料
	健康栄養学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学:半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
	家政福祉学科 1 年	700,000 円	250,000 円	367,300 円	その他は施設費、実験実習料、維持費

	家政福祉学科 1 年 (児童福祉コース・保育士 課程履修費)	700,000 円	250,000 円	447,300 円	その他は施設費、実験実習料、 維持費
	家政福祉学科 2-4 年	700,000 円	0 円	320,000 円	その他は施設費、実験実習料
	家政福祉学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学: 半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)
看護 学部	看護学科 1 年	1,050,000 円	250,000 円	597,300 円	その他は施設費、実験実習料、 維持費
	看護学科 2-4 年	1,050,000 円	0 円	550,000 円	その他は施設費、実験実習料
	看護学科 3 年 (一部対象者:保健師 課程履修費含む)	1,050,000 円	0 円	650,000 円	その他は施設費、実験実習料
	看護学科 1-4 年	0 円	0 円	100,000 円	その他は在籍料(休学・留学: 半期のみ 50,000 円、一年分 100,000 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 2021 年度に学生支援の方針を策定する必要性と有効性を確認し、学生支援の方針の策定を進めた。修学支援、学生生活支援、キャリア支援、健康支援の 4 つの柱に基づき学生支援を行っている。具体的には次のとおりである。 教務課：学生の修学支援のため、学科別、学年別に担任教員を、新入学生への支援のため、学科別に少人数グループをつくり、アドバイザー教員を配置し、多面的な学生支援を行っている。 教育支援課：学生の基礎学力の向上と実践的な教養の習得をサポートする学習室（ラーニングステーション）を開設。年間を通して、少人数制の学習講座「わよらかフェ」を開催する他、基礎学力を身に付けるための学習教材の配付や貸出を行い、自主的に学ぶ学生たちの拠点となっている。 学生課：ユニバーサルサポート推進室（教職員・精神保健福祉士・社会福祉士）による障害のある学生等個別の支援を必要とする学生の大学生活や修学に関するサポートと指導、及び合理的配慮方針の決定と実施を行っている。各種奨学金（学内奨学金、授業料減免制度、特待生制度を含む）の取り扱いを通して学生が修学を継続できるよう経済的な支援を実施。また二つの学生寮を完備している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路支援センターにて、1～2 年次よりインターンシップや各種資格の対策講座、就職関連セミナーなどを開催。3 年次（一部 2 年次）に学科担当キャリアカウンセラーが学生全員と個人面談を行い各学生の志望や適性を把握。更に 3～4 年次には各業界の有益な情報提供、企業とのマッチング、企業説明会、特別講座などを数多く実施。また、障害のある学生へは個別に支援を行っている。 教育支援課：中学校、高等学校の教員になることを希望している学生に「教員採用試験一次対策講座」「教員採用試験二次対策講座」「時事通信教員採用試験対策講座」等の教員採用試験対策を行っている。 また、共通総合科目に「キャリアデザイン」を開講、就職教育にとらわれることなく、受講生が一個人、一女性として自分らしい生き方を考えるために必要な「知識」「考え方」を論理的、実践的に学べる環境を提供している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）学生課：保健センターによる健康診断有所見者の事後措置及び保健指導、学内の感染症予防及び感染者の対応、学外実習参加者の検査対応、保健だよりの発行等の啓蒙活動、疾患や障害のある学生の健康管理、適正体重支援、学校行事や各種イベント時の救護などを実施。学生相談室（臨床心理士 1 名）によるメンタル面を中心とした面談を週に 2 日間実施。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：（進路支援センター） <https://www.wayo.ac.jp/career>
（研究支援課）

<https://www.wayo.ac.jp/introduction/disclosure>

<https://www.wayo.ac.jp/introduction/research>

https://wayo.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=0&q=0

（和洋女子大学紀要/和洋英文学/和洋女子大学英文学会誌/国府台：博物館学過程年報/ 博士論文 学術リポジトリにてダウンロード可）

（教育支援課）

https://www.wayo.ac.jp/academics/education_center

全学教育センター年報、教職教育支援センター年報、和洋女子大学司書課程・司書教諭課程年報等を発刊し成果を公表

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F112310102477
学校名（〇〇大学 等）	和洋女子大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 和洋学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		233人	232人	244人
内 訳	第Ⅰ区分	146人	134人	
	第Ⅱ区分	61人	62人	
	第Ⅲ区分	26人	36人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				246人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	15人
(備考) 年間計は、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位1/4の範囲に属したことにより「停止」となった者の人数。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	人	人
G P A 等が下位4分の1	11人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考) 			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。